



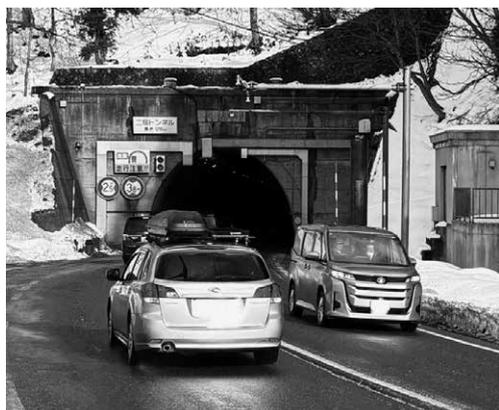
Q 国道17号貝掛・二居間道路改良の早期事業化を

とみ ざわ まさ ひみ 富 沢 雅 文 (文責)



A

毎年、国・県に対して要望を行っているが、今後は国土強靱化・防災減災という観点から極めて重要な事業であるということをさらに強調し要望していく



二居トンネル（二居側）

質問

国道17号貝掛・二居間急勾配、急カーブにより湯沢管内でも特に交通難所区間となっている。毎年のメンテナンス工事、事故の発生などから一刻も早く事業化する必要があるが、町の現在の取り組みは。

答弁

毎年、財務省や国土交通省の大臣、副大臣、大臣政務官、事務次官、担当部署長、所長などに対し直接要望活動を行っている。また、群馬県みなかみ町と湯沢町で構成している「国道17号群馬新潟県境地区の防災事業促進期成同盟会」では、県選出の

質問

国会議員や県会議員とともに国土交通省に対し要望を行っている。また、南魚沼市と構成している「一般国道17号湯沢南魚沼道路整備促進期成同盟会」でも国土交通省北陸地方整備局長や長岡国道事務所長に対し要望を行っている。

質問

は。

答弁

この1月16日にも県知事に会う際にも話をすることになる。財政負担は基本的には国3分の2、県3分の1の負担割合であるが、新潟県は財政難である。そうした中、国土強靱化の中期計画が始

まって、約20兆円強という予算が予定されている。新潟県のように都道府県の財政が厳しいところは、国に負担してもらえようというしつかりと要望していきたい。

質問

早期事業化として、地元町内会等で何かできることはあるか。

答弁

国道17号は地域にとっての生命線である。

あるが、国や県にとっても国土強靱化、防災減災という観点から極めて重要な事業であるということを一層強調し

三俣防災の進捗について

質問

「三俣防災事業」の現在の進捗状況、順調なのか何か課題があるのか、開通・共用開始の見込みは。

答弁

工事の進捗状況や課題、開通、共用開始などについて国土交通省に問い合わせたところ、令和5年度より芝原地区において工事に着手し、新芝原トンネルの湯沢側において、切り戸、雪崩予防

策等の改良工事を施工、八木沢・三俣地区において、用地買収及び埋蔵文化財の有無について調査を進めており、現時点では順調に事業が進んでいるとのこと。供用開始の見込みについては、用地買収未了や埋蔵文化財調査、トンネル掘削における地山の状況などの不確定要素があることが

要望していくつもりなので、その後押しをぜひ地元の皆様からお願いしたい。

質問

現時点では示すことができないとのこと。

質問

用地取得率が91%となっているが、何か問題があるのか。

答弁

個別の状況は話すことができないが、長岡国道事務所からは順調であるという話を聞いている。

質問

「三俣防災事業」の事業費は全体でいくらなのか。（この質問の趣旨は、貝掛・二居間の改良が、三俣防災事業よりも大規模な事業となることが見込まれるため、町民の皆様はその費用感をイメージしていただくために行ったものです。）

答弁

約120億円で国3分の1、県3分の1の負担と聞いている。